

地域リーダー養成に向けた人材育成プロジェクト

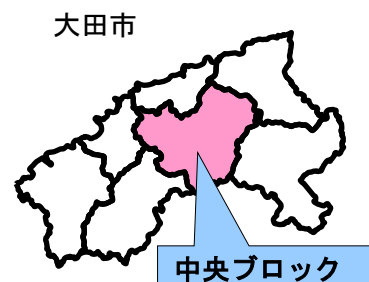
中高生のための

「大田中央“絆プログラム”～未来へつなげる地域の絆～」

大田市立中央公民館

1. 大田市立中央公民館の概要

大田市は、島根県の東西の中央部に位置し、日本海に面する、面積436.11km²の地域である。世界遺産石見銀山遺跡、四季を通じて楽しめる国立公園三瓶山、情緒あふれる温泉津温泉、鳴砂で有名な琴ヶ浜など歴史や自然が豊富にある。大田市立中央公民館は市の中心地にあり、大田町、川合町、久利町、大屋町の4つの町からなる中央ブロックを担当している。4町あわせて人口約13,700人と、大田市の人口38,621人にうち、実に市内の人口の約35%を抱える地域である。公民館は4つのまちづくりセンターと連携しながら取り組みを進めている。



2. 事業の概要

(1) はじめに

① 実証事業名 『地域リーダー養成に向けた人材育成プロジェクト』

② 実証事業のテーマ

中・高生のための「大田中央“絆プログラム”～未来につなげる地域の絆～」

③ 実証事業のねらい

近年地縁的なつながりの希薄化や個人主義の浸透等により、地域の人々の心をつなぐ「絆」「活力」が失われつつある。進学や就職をしたものの、人との関わり、コミュニケーションがうまく図れず、孤立したり挫折したりする若者が増え、ひきこもり、ニートなど大きな社会問題となっている。さらに、現在全国に70万人とも言われる“ひきこもり”者の高齢化も深刻な問題となっているところである。大田中央ブロックにおいても、青少年の居場所対策が新設されるなど、人との関わりがうまく図れない若者が増えている現状がある。将来の日本を、将来の地域を背負っていくはずの青少年たちが、社会に対応していけないのは地域にとって非常に大きな損失であると考えられている。

こうした課題に対して「青少年期に自然体験や奉仕体験、地域活動等が豊富な人ほど大人になってやる気や生きがいを持ち、規範意識や人間関係力が高く、青少年の人間形成に大きな影響を与えている」という報告もある。そこで、次世代を担う子どもたち（中・高生）に様々な体験活動の場を提供し、人と関わる喜びを体感、実感できるようにすること、そして、ワークショップやディスカッションを通してコミュニケーション能力や対人関係能力、社会性を高めること、さらには地域リーダーとして将来活躍する人材を養成することをねらいとしている。

(2) 具体的な取組（内容、活動状況 等）

地域課題に対して、地域の人と人とが世代を超えてつながり、支えあい、連帯感を育てる『地域リーダー養成に向けた人材育成プロジェクト』を実施する。

これは、中央公民館が核となり、学校・家庭・地域の連携により、活力ある若者等の地域リーダー養成をく大田中央“絆”プログラム>で実践していくものである。青少年と様々な世代の地域住民とが、一緒に体験活動や地域貢献活動、学習会（講義、ワークショップ、ディスカッション）等を通し、コミュニケーション能力を身につけ、地域の絆を深めていくプログラムである。

く中高生のための大田中央“絆”プログラム>

中高生の活動名	日時 参加人数	内 容	活動記録
NO.1 自然体験 (山たんけん)	7/17(日) 参加者 22名 (小学生と保護者+ 中高生+地域指導者)	野外活動で自然に親しみ ふるさとのすばらしさ を感じ、地域の人たちとふれ あいながら一緒に学んだ。	
NO.2 自然体験 (川たんけん)	7/31(日) 参加者90名 (小学生と保護者+ 中高生+地域指導者 +地域住民)	自分たちの住んでいる 山・川・海等ふるさとの自然 を体感した。ゴミ拾いや 環境学習を通し、ふるさと に誇りをもつことが出来た。	
NO.3 コミュニケーションを 深める“あそび 体験”	8/8(月) 参加者20名 (中高生+放課後子 ども教室指導者+地 域指導者他)	地域指導者と共に、コミュ ニケーションを深める講 義やレクリエーションの 実践を学んだ。	
NO.4 乳幼児ふれあい体 験	8/9(火) 参加者66名 (乳幼児と保護者+ 中高生+地域指導者)	乳幼児とその保護者と接 し、子育てシミュレーショ ンから家庭・家族の絆の大 切さや命の尊さを学んだ。	
NO.5 新生活を始める中 高生のための料理 教室	8/12(金) 参加者24名 (中高生+地域ボラン ティア+地域栄養士+市 栄養士+PTA保護者)	ひとり暮らしに困らない 栄養バランスを考えた食 事について、フードモデ ルを使ってグループワー クをし、調理実習を行っ た。	
NO.6 『絆』について 地域の人と ディスカッション	8/27(土) 参加者48名 (中高生+地域リー ダー+指導者)	中央ブロックの地域リー ダーと高校生と一緒に講 義を聞き、グループワー クを行い、地域での絆づ くりの活動を考えた。	

<p>NO. 7 ボランティア体験 「東日本大震災復興支援チャリティーコンサート」</p>	<p>9/17(土) 参加者10名 (中高生+地域住民+音楽協会関係者)</p>	<p>東日本チャリティーコンサートのボランティアスタッフとして、受付、会場整理、義援金箱等役割を担い、被災地へ義援金を送った。</p>	
<p>NO. 8 ボランティア体験 「大田町民運動会」スタッフとして</p>	<p>10/2(日) 参加者9名 (中高生+地域住民+小学生+幼児+体育協会関係者)</p>	<p>町民運動会のボランティアスタッフとして用具係、放送係、招集係、記録係等役割を担い、地域貢献活動を行った。</p>	
<p>NO. 9 食の伝統文化体験 餅つき体験とボランティア体験</p>	<p>12/17(土) 参加者65名 (小学生と保護者+中高生+地域指導者+地域住民)</p>	<p>餅つきの由来、お正月の食文化について学び、地域の子どもと大人と一緒に、餅つき体験とボランティア体験を行った。</p>	
<p>NO. 10 国際交流&料理教室 で異文化を学ぶ</p>	<p>12/26(月) 参加者18名 (国際交流員+中高生+PTA保護者+地域ボランティア)</p>	<p>オーストラリアの国際交流員から異文化を学び、スリランカカレーの調理実習を通して、食事づくりの楽しさや国際交流に関心をもつきっかけづくりを行った。</p>	
<p>NO. 11 地域リーダーと一緒に『子育てかるた』制作</p>	<p>2/5. 19(日) 参加者66名 (地域リーダー+中学校美術部・先生+大田高校美術部・先生+小学生と保護者+地域)</p>	<p>市内から子育て川柳を広く募集した。選考された川柳を中心に中高生・美術部・子育て中の親・子どもたちなど地域総掛りでカルタ作成にあたり、子育てを一緒に考え、絆づくりを図った。</p>	
<p>NO. 11 ボランティア体験 「大田まちセンまつり」スタッフ</p>	<p>3/25(日)予定 (小学生と保護者+中高生+地域住民)</p>	<p>地域の色々なイベントに出かけ、スタッフとして役割を担いながら地域住民とふれあった。</p>	
<p>NO. 13 「絆・みんなで一歩」公民館研究大会 で学習成果を発表</p>	<p>3/11(日)予定 (小学生と保護者+中高生+地域指導者+地域住民)</p>	<p>体験プログラム、学習プログラムと一連の流れで学んだ成果を、地域で実践発表し、地域リーダーとしての思いや考えを伝える。</p>	

3. 事業の成果と課題

- “大田中央絆プログラム”は、中高生が地域で楽しく活動できるように、バラエティーに富んだプログラムを企画した。シリーズで実施することにより、たくさんの中・高生が、地域に出かけるきっかけづくりとなり、地域の様々な世代の地域住民と関わりを持ち、ふれあいの中からコミュニケーション能力、対人関係能力を高めることができた。
- 中高生の若くエネルギーあふれる生き活きとした活動は、若い世代とふれあう機会の少なかった地域住民にとっても刺激となり、輝きをもって生き生きと活動する様子から、社会全体が活性化していくように感じている。
- 中高生が地域で活躍することにより、地域に対して責任を持って自分のできる役割を果たすことで、地域から認められ、喜びを感じ、充実感と達成感を持つことで、自己への自信へとつながり、また社会性が確実に身につけているように感じた。
- 学校側（中学校・高校）も“大田中央絆プログラム”事業に大変関心を持ち、協力的に対応して頂き、より一層学校・家庭・地域の連携を深めることができた。
- 中高生がリーダーとして活躍する姿を、小学生が見ることで、ジュニアリーダーとしての意識を高め、人材育成に繋げることができた。
- 次世代を担う子どもたちと地域住民のふれあいの中から、地域の“絆”が生まれ、地域コミュニティの再生につなげることができた。
- 「中高生のための大田中央絆プログラム」をきっかけに、第2弾「中央ブロックの『次世代を担う若い世代の地域リーダー養成』に向けた人材育成プロジェクト」につなげることができた。これは、大田市公連合同事業「“ひと”がつくる地域の未来『絆パワー再発見』」の一環として取り組みを進めているものである。中央ブロックにおいては、少子高齢化・若者の流出、過疎化が進む中、各町単独での課題解決にも限界があり、また従来地域の長が高齢化しているにも関わらず、次世代を担う若いリーダーが育成されていないという課題に対し、次世代を担う若い地域リーダーを発掘し、リーダーの主体性、地域の特色を生かした事業を展開していこうとするものである。今年度は各町の地域リーダーと高校生リーダーが中心になり「子育てかるたづくり」を行った。この「かるたづくり」は子育てについて地域全体で考えるきっかけとなり、地域の子育て中の親や、様々な世代の地域住民から思いのこもった子育て川柳が数多く集まった。その川柳に対して中高生が絵を描き、カルタを完成させた。地域と中高生がともに協力して一つのものを作り上げる活動は、これまでにない大きな絆が作りあげられた。
- 今後も公民館は、団塊の世代や高齢者の知恵や経験を地域で生かせる環境づくりを行い、“絆こそ地域活性化の源”を信念に、世代と世代、人と人をつなぐ“絆の架け橋”の役割を担って人材育成を推進していきたい。

また、ジュニアリーダーが中高生リーダーに、中高生リーダーが次世代を担う地域リーダーになれるよう、人材育成の循環型絆社会の構築をめざし取り組んでいきたい。

<大田中央絆プログラムに参加した中高生の感想>



僕は絆プログラムの中の3つに参加しました。
特に心に残っているのは、「乳幼児ふれあい体験」です。
赤ちゃんはとてもかわいくて、将来親になった時、
大変なこともあるだろうけど、子育てをかんばろうと思いました。



“絆”プロジェクトに参加して、いろいろな人と
たくさん話ができるようになりました。この経験を
生かして、これから積極的に地域に出て
いきたいと思っています。